

2-21	個を生かす異学年合同学習（音楽）の授業の例
------	-----------------------

1 はじめに

全校児童3名（1年生男子1名、2年生男子1名、3年生男子1名）のへき地小規模校であるため、音楽の授業を異学年合同で行っている。異学年合同において互惠性のある活動を展開し、段階的、系統的な学習を行うために取り組んだ指導の工夫等を紹介する。

2 実践例

(1) 共通教材の学習

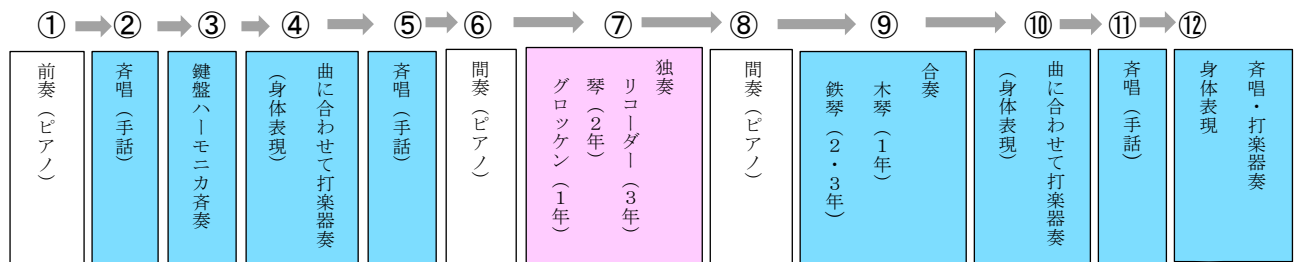
各学年の歌唱共通教材は、全学年で学習している。上学年にとっては既習曲になるが、学年に応じた目標を設定することで、技能の向上やより深い学びを進めることができる。以下は、10月に行った、2学年の共通教材「虫の声」の各学年で設定した目標である。

10月「虫のこえ」（2年共通教材）における目標	
1年	歌詞の表す様子を想像しながら、虫の鳴き声をまねるなど歌い方や表現を工夫する。
2年	擬声語を工夫して歌ったり、楽器で表現したりして、様々な音の特徴に気付く。
3年	音色に気を付けながら、楽器を使って虫の鳴き声を即興的に表現して楽しむ。

(2) 一人一人が主役になる全校合奏

市内の音楽会に向けた全校合奏では、子どもたちが本番で力を発揮できるよう、学年構成や児童の実態に合わせて演奏形態を考えている。練習過程においては、子どもの思いを大切にしながら、楽器、リズム、構成などに適切なアレンジを加える。各学年の表現領域における器楽・音楽づくりの活動を取り入れ、それぞれの学年の目標を達成できるよう指導を工夫している。

【全校児童3名で行う合奏「世界に一つだけの花」】 ■ 全員 ■ 代表 □ 教師



- ① …「花はさく」のサビ部分。終わりの音が②の「世界に一つだけの花」の歌いだしの音程と同じ。聴いて音の高さをつかむ。 ②…伴奏なしで曲の最後の4小節のみ。 ③…曲の始めから4フレーズ。 ④…2フレーズ（1年生：カスタネット、2年生：すず、3年生：タン布林…ピアノ伴奏に合わせる。） ⑤…曲のサビの部分9小節。 ⑦…1年生：チューリップ、2年生：さくらさくら、3年生：エーデルワイス…それぞれの楽器で花の曲を表現。3曲をピアノ伴奏でつなぐ。 ⑨…2番の曲の始めから4フレーズを合奏。 ⑩…④と同じ。 ⑪…2番のサビの部分から最後まで。一部、独唱を入れる。 ⑫…後奏（フィナーレ）

※ ①、⑥、⑧の前奏、間奏及び伴奏のピアノ演奏は教師が行う。